

31. 3. 2004

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

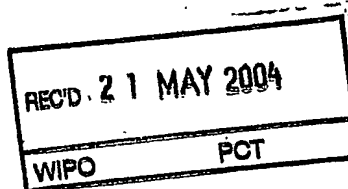
別紙添付の書類は下記の出願書類の謄本に相違ないことを証明する。  
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2003年 4月30日

出 願 番 号  
Application Number: PCT/JP03/05541

出 願 人  
Applicant (s): 株式会社キングジム  
嶋田 博  
戸田 直利  
谷田部 智博

BEST AVAILABLE COPY

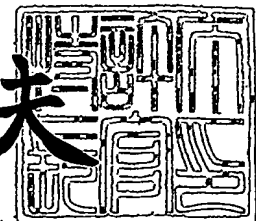


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004 年 4 月 30 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



## 特許協力条約に基づく国際出願願書

原本（出願用） - 印刷日時 2003年04月30日（30.04.2003）水曜日 15時50分38秒

PF-3123

0	受理官庁記入欄	
0-1	国際出願番号	PCT/JP03/05541
0-2	国際出願日	30.04.03
0-3	(受付印)	PCT International Application 日本国特許庁
0-4	様式-PCT/R0/101 この特許協力条約に基づく国際出願願書は、 右記によって作成された。	PCT-EASY Version 2.92 (updated 01.01.2003)
0-5	申立て 出願人は、この国際出願が特許協力条約に従って処理されることを請求する。	
0-6	出願人によって指定された受理官庁	日本国特許庁 (R0/JP)
0-7	出願人又は代理人の書類記号	PF-3123
I	発明の名称	ファイリング用具用綴具
II	出願人	
II-1	この欄に記載した者は	出願人である (applicant only)
II-2	右の指定国についての出願人である。	米国を除くすべての指定国 (all designated States except US)
II-4)a	名称	株式会社キングジム
II-4en	Name	KING JIM CO., LTD.
II-5)a	あて名:	101-0031 日本国 東京都千代田区 東神田2丁目10番18号
II-5en	Address:	10-18, Higashi-Kanda 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0031 Japan
II-6	国籍 (国名)	日本国 JP
II-7	住所 (国名)	日本国 JP
III-I	その他の出願人又は発明者	
III-I-1	この欄に記載した者は	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-I-2	右の指定国についての出願人である。	米国のみ (US only)
III-I-4)j	氏名 (姓名)	嶋田 博
III-I-4e	Name (LAST, First)	SHIMADA, Hiroshi
III-I-5)j	あて名:	101-0031 日本国 東京都千代田区 東神田2丁目10番18号 株式会社キングジム内
III-I-5e	Address:	c/o KING JIM CO., LTD. 10-18, Higashi-Kanda 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0031 Japan
III-I-6	国籍 (国名)	日本国 JP
III-I-7	住所 (国名)	日本国 JP

III-2	その他の出願人又は発明者	
III-2-1	この欄に記載した者は	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-2-2	右の指定国についての出願人である。	米国のみ (US only)
III-2-4j a	氏名(姓名)	戸田 直利
III-2-4c n	Name (LAST, First)	TODA, Naotoshi
III-2-5j a	あて名:	101-0031 日本国 東京都 千代田区 東神田2丁目10番18号 株式会社キングジム内
III-2-5e n	Address:	c/o KING JIM CO., LTD. 10-18, Higashi-Kanda 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0031 Japan
III-2-6	国籍(国名)	日本国 JP
III-2-7	住所(国名)	日本国 JP
III-3	その他の出願人又は発明者	
III-3-1	この欄に記載した者は	出願人及び発明者である (applicant and inventor)
III-3-2	右の指定国についての出願人である。	米国のみ (US only)
III-3-4j a	氏名(姓名)	谷田部 智博
III-3-4c n	Name (LAST, First)	YATABE, Tomohiro
III-3-5j a	あて名:	101-0031 日本国 東京都 千代田区 東神田2丁目10番18号 株式会社キングジム内
III-3-5e n	Address:	c/o KING JIM CO., LTD. 10-18, Higashi-Kanda 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0031 Japan
III-3-6	国籍(国名)	日本国 JP
III-3-7	住所(国名)	日本国 JP
IV-1	代理人又は共通の代表者、通知のあて名 下記の者は国際機関において右記のごとく出願人のために行動する。	代理人 (agent)
IV-1-1ja	氏名(姓名)	浜田 治雄
IV-1-1cn	Name (LAST, First)	HAMADA, Haruo
IV-1-2ja	あて名:	107-0062 日本国 東京都 港区 南青山3丁目4番12号 知恵の館
IV-1-2cn	Address:	Wisdom House, 4-12, Minami-Aoyama 3-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0062 Japan
IV-1-3	電話番号	03-3404-5768
IV-1-4	ファクシミリ番号	03-3404-5748
IV-1-5	電子メール	unipat@nn.ij4u.or.jp

## 特許協力条約に基づく国際出願願書

PF-3123

原本（出願用） - 印刷日時 2003年04月30日（30. 04. 2003）水曜日 15時50分38秒

V	国の指定		
V-1	広域特許 (他の種類の保護又は取扱いを求める場合には括弧内に記載する。)	EP: DE FR GB	
V-2	国内特許 (他の種類の保護又は取扱いを求める場合には括弧内に記載する。)	CN JP KR US	
V-5	指定の確認の宣言 出願人は、上記の指定に加えて、規則4.9(b)の規定に基づき、特許協力条約のもとで認められる他の全ての国の指定を行う。ただし、V-6欄に示した国の指定を除く。出願人は、これらの追加される指定が確認を条件としていること、並びに優先日から15月が経過する前にその確認がなされない指定は、この期間の経過時に、出願人によって取り下げられたものとみなされることを宣言する。		
V-6	指定の確認から除かれる国	なし (NONE)	
VI	優先権主張	なし (NONE)	
VII-1	特定された国際調査機関 (ISA)	日本国特許庁 (ISA/JP)	
VIII	申立て	申立て数	
VIII-1	発明者の特定に関する申立て	-	
VIII-2	出願し及び特許を与えられる国際出願日における出願人の資格に関する申立て	-	
VIII-3	先の出願の優先権を主張する国際出願日における出願人の資格に関する申立て	-	
VIII-4	発明者である旨の申立て（米国を指定国とする場合）	-	
VIII-5	不利にならない開示又は新規性喪失の例外に関する申立て	-	
IX	照合欄	用紙の枚数	添付された電子データ
IX-1	願書（申立てを含む）	4	-
IX-2	明細書	11	-
IX-3	請求の範囲	2	-
IX-4	要約	1	EZABST00. TXT
IX-5	図面	14	-
IX-7	合計	32	
	添付書類	添付	添付された電子データ
IX-8	手数料計算用紙	✓	-
IX-9	個別の委任状の原本	✓	-
IX-17	PCT-EASYディスク	-	フロッピーディスク
IX-18	その他	特許印紙を貼付した書面	-
IX-19	要約書とともに提示する図の番号	1	
IX-20	国際出願の使用言語名:	日本語	

## 特許協力条約に基づく国際出願願書

原本（出願用） - 印刷日時 2003年04月30日（30. 04. 2003）水曜日 15時50分38秒

PF-3123

X-1	提出者の記名押印	
X-1-1	氏名(姓名)	浜田 治雄

## 受理官庁記入欄

10-1	国際出願として提出された書類の実際の受理の日	30.04.03
10-2	図面：	
10-2-1	受理された	
10-2-2	不足図面がある	
10-3	国際出願として提出された書類を補完する書類又は図面であつてその後期間内に提出されたものの実際の受理の日（訂正日）	
10-4	特許協力条約第11条(2)に基づく必要な補完の期間内の受理の日	
10-5	出願人により特定された国際調査機関	ISA/JP
10-6	調査手数料未払いにつき、国際調査機関に調査用写しを送付していない	

## 国際事務局記入欄

11-1	記録原本の受理の日	
------	-----------	--

## ファイリング用具用綴具

### 技術分野

本発明は、ファイルに関し、特に綴じ穴を有するシートの着脱が容易な綴じ具であって穴綴じするとともに各部品への分解が容易なファイルに関する。

### 背景技術

従来のファイルとしては、例えば、可撓性はあるが伸縮性の小さい合成樹脂で被覆した綴り紐と、帯状板の上面に二条のリブを立設したファイル（実開昭62-162070号）や、引出し用の切欠および嵌着用受部を設けた定板を有する箱体と、断面コ状の押さえ具と、箱体の嵌着用受部に嵌着させる嵌着用突部を有する止め具から構成されるファイル（実開昭54-151420号）や、ファイル表紙と、係止部と被係止部を備えた帯状部材から形成されるファイル（特開昭60-192696号）が提案されている。

これらの提案は、いずれも従来からのファイルの機能を備え、環境保全への対応についての考慮が一部なされているものである。

実開昭62-162070号は、部品点数が少なく、金属部品を必要とせず、構成も簡単であるという利点を有するものであるが、ファイルを固定する綴り紐の穴が2つであるため、クリアファイル等のシートを装着した場合に、穴一つ当たりに加わる荷重が大きく固定が不安定であり機能的には不十分となる場合がある。

また、実開昭54-151420号は、金属部品を必要とせず、機能的にも複数の穴を備えているため、着実にシート等を固定することができる。一方、部品点数が増加すると共に、着脱が容易とはいえず、その構造も必ずしも簡単ではない。

さらに、特開昭60-192696号は、部品点数も少なく、金属部品を使用することなく、簡単な構造で確実にシートが固定でき、中途からシートの抜き差しや追加が可能である。しかしながら、ファイルの上下から折り畳み式の帯状部材を利

用するため、折曲部分に白化などの外観悪化が生じやすく、しかも強度的にも弱くなるという問題があった。

そこで、本発明は、ファイルとして十分機能するためにシートが確実に固定できると共に、中途からの抜差や追加が容易で、使い勝手がよく、なおかつ、部品点数が少なく、素材が多種とならず、構造が簡単な綴じ穴を有するシートの着脱が容易なファイルを提供することにある。

#### 発明の開示

本発明は、帯状背板と可撓性係止棒でシートを固定することで前記の目的を達成するものである。具体的には、本発明に係るファイリング用具用綴具は、平板からなる２枚の表紙がその一辺でそれぞれ背装部と接合されて一体となる表装部と背装部に対応する可撓性係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、前記背装部はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、可撓性係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記可撓性係止棒と表装部との間に前記シートが固定されるものである。

ここで、可撓性係止棒の括れ部に鍵状係止部が係止されて固定するが、以下の請求項のように鍵状係止部が括れ部を挾持することもできるし、さらに、鍵状係止部が錨部を備える係止部であって、可撓性係止棒の括れ部に穴部を設けて係止させても良い。

請求項２の発明は、平板からなる２枚の表紙がその一辺でそれぞれ背装部と接合されて一体となる表装部と背装部の表側に設けられる背装部より長さの短い帯状背板と背装部裏側に帯状背板に対応する可撓性係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、

前記表装部はその背装部に複数の背装穴部が設けられて、帯状背板はその表面に

複数立設される鍵状係止部を備え、この鍵状係止部は背装部に設けられた複数の背装穴部を貫通し、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、可撓性係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記可撓性係止棒と表装部との間に前記シートが固定される。

ここで、帯状背板を利用することで、物品の分解や分別が容易となり、使用後の環境対策が容易となる。

請求項3の発明は、可撓性係止棒は、径が小さい括れ部とこの括れ部より径の大きい押圧部とから構成されることを特徴とする。ここで、括れ部と押圧部の長さの比は固定されるものではないが、押圧部が長ければよりしっかりシートが固定される。

請求項4の発明は、括れ部は、結合溝が長軸方向に刻設された係止部と、曲面から構成される円形部とから構成されることを特徴とする請求項2記載のファイリング用具用綴具である。

ここで、係止溝の長さは任意であるが、連設される円形部に近接するとともに溝の幅を狭め、また深さを浅くするとよりスムーズに係止溝内を鍵部が移動可能となる。

請求項5の発明は、結合溝は、円形曲面の軸対称の4点が切欠けされることを特徴とする。

この結合溝は、より好適には2つの溝が2組で対となる構成であることが望ましい。

請求項6の発明は、押圧部は、括れ部の中心軸線が押圧部の中心軸より特定方向に偏って設けられること（偏心構造）を特徴とする。

ここで、特定方向とは、押圧方向される方向である。この偏りの度合いを調整することでシートの枚数の加減に対応可能である。

請求項7の発明は、鍵状係止部は、その間に可撓性係止棒を挾持する挾持部の先



端に設けられる鍵部は互いに内側に突出されることを特徴とする。ここで、突出は垂直に突出する場合と、傾斜角をもって突出と両方を備える。

請求項 8 の発明は、鍵状係止部は、対向する挟持部の間に挟持部より高さの低い板状のストッパ部が帯状背板から垂直に突設されることを特徴とする。このストッパ部の高さは、可撓性係止棒の円形部によって定まる値であり、任意に構成しうる。

請求項 9 の発明は、シートは、中央部が圧着されて複数の穴部が設けられるとともに上部に開口部が設けられた透明な袋状に形成されることを特徴とする請求項 1 記載のファイリング用具用綴具である。ここで、中央部の圧着は、熱溶着または超音波ウェルダが一般的であるが、接着材を利用した接合でも良く、また、中央部全面を圧着する場合と、一部を溶着する場合を含む。

請求項 10 の発明は、帯状背板の結合溝と結合溝部は係合する帯状背板の鍵状係止部に合わせ鈍角に刻設することを特徴とする。鈍角に刻設することでより係合が強固なものとなる。

#### 図面の簡単な説明

図 1 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示す全体図、

図 2 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示す分解図、

図 3 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における可撓性係止棒の実施例を示す正面図、

図 4 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における可撓性係止棒の実施例を示す側面図、

図 5 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における可撓性係止棒の実施例を示す (a) A-A 断面図、(b) B-B 断面図、(c1) C-C 断面図、(c2) 上底面が下底面より幅広である C-C 断面図、(c3) 上底面の幅と下底面の幅が略等しい C-C 断面図、(d) 右側面図、

図 6 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における可撓性係止棒の実施例を

示す詳細図、

図 7 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における帯状背板の実施例を示す正面図、

図 8 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における帯状背板の実施例を示す側面図、

図 9 は、本発明に係るファイリング用具用綴具における帯状背板の実施例を示す (a) A-A 断面図、 (b) B-B 断面図、

図 10 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示す背面図、

図 11 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示す詳細図、

図 12 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示す詳細図、

図 13 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例を示し、 (a) 鍵状係止部 56 が係止部 32 にある際の断面図、 (b) 鍵状係止部 56 が円形部 34 にある際の断面図、 (c) 円形部 34 が鍵状係止部 56 から開放される断面図、

図 14 は、本発明に係るファイリング用具用綴具の実施例のシートを示す構成図、である。

#### 発明を実施するための最良の形態

本発明のその他の詳細、利点および特徴については、添付図面を参照しながら以下に記す実施例によって明らかにされる。

以下、本発明の実施形態について図面を参照して詳細に説明する。ファイル 2 は、図 1 に示すようにファイル本体 4 とファイリング用具用綴具 6 とを備えている。ファイル本体 4 とファイリング用具用綴具 6 は合成樹脂成形品であり、ファイル本体は押出し成形もしくは射出成形、ファイリング用具用綴具は、射出成形等により一体成形されたものである。ファイル本体 4 は、縦長矩形状の背装部 8 と、この背装部 8 を挟んでその長辺側両側に連設された縦長矩形状の一对の表装部 10、12 とを備えている。図 2 に示すように、背装部 8 と表装部 10、12 の境界にはファイル

本体 4 の厚みより肉厚が薄くなった V 字溝からなる第 1 ヒンジ 1 4 が形成され、この第 1 ヒンジ 1 4 により表装部 1 0、1 2 が背装部 8 に対して容易に折り曲げ可能、すなわち、開閉可能とされている。

一対の表装部 1 0、1 2 における背装部 8 側の近傍には、同じく断面 V 字状の第 2 ヒンジ 1 6 が第 1 ヒンジ 1 4 と所定間隔を開けて、かつ、第 1 ヒンジ 1 4 に平行に形成され、この第 2 ヒンジ 1 6 により、各表装部 1 0、1 2 が折り曲げ可能とされている。背装部 8 の短辺方向の中央部に長辺方向 1 列に背装穴部 1 8 が複数設けられる。背装穴部 1 8 は、所定の間隔を開けて配置される。

ファイリング用具用綴具 6 は、可撓自在な複数箇所に係止可能な可撓性係止棒 2 0 と複数の被係合部を備える帯状背板 2 2 とから構成される。可撓性係止棒 2 0 は、図 3 ～ 6 に示すように全長が背装部 8 の長辺とほぼ同一の長さであり、一方の端部に扁平な把持部 2 4 を有し、もう一端に係止端部 2 6 を備える。可撓性係止棒 2 0 の把持部 2 4 と係止端部 2 6 との間には複数の括れ部 2 8 と押圧部 3 0 が交互に連結されて配置される。

この括れ部 2 8 は、背装部 8 における背装穴部 1 8 に対応する位置に設けられる。括れ部 2 8 は、結合溝が長軸方向に刻設された係止部 3 2 と、曲面から構成される円形部 3 4 とが連結される。係止部 3 2 は、図 3 の A-A 断面図である図 5 (a) に示されるように、4 隅に結合溝 3 6 が刻設され円形表面 3 8 と結合溝 3 6 が円周方向には交互に配置される。結合溝 3 6 は、括れ部 2 8 の軸方向については、括れ部 2 8 のほぼ中央まで刻設され、押圧部 3 0 側である一端が幅広状に刻まれるのに対して、円形部 3 4 側は、隣接する結合溝 3 6 が隣接しながら先細状に刻まれる (図 6)。結合溝 3 6 は結合溝底部 5 2 と直角に刻設させても良いが鋭角に刻設し、係合する帯状背板 2 2 の鍵部 6 0 と角度を合わせることで、その係合を強固にすることが好ましい。

円形部 3 4 は、図 5 (b) の B-B 断面図に示されるが如く、一切、切欠がなく、滑らかな円形状表面からなる。ここで、係止部 3 2 と円形部 3 4 は同一半径である

とともに同軸上に配置される。

押圧部30は、図5(c1)のC-C断面図に示されるように所定のRを有する2つのR面44と両長辺でそれぞれ連設される第1底面46と、R面44と接続される2つのテーパ面48と両長辺でそれぞれ連設されるとともに第1底面46と平行するように設けられる第2底面50とを有する。ただし、断面形状は図5(C1)に限定されるものではなく、第1底面と第2底面また、押圧部30の中心軸は、連結される括れ部28の中心軸と同軸上ではなく、括れ部28の中心軸が括れ部28の外周が第1底面46と接する程度に第1底面46側へずれるよう連設される(偏心構造)。(図5(C2)、(C3)参照)

一方、ファイリング用具用綴具6のもう一方の構成要素である帯状背板22は、図7～9に示すように底板部54上に複数の鍵状係止部56が、括れ部28及び背装穴部18に対応する位置毎に立設される。この鍵状係止部56は、2枚の挟持板58が、底板部54の短辺方向に並立して互いに対向するように底板部54上に立設される。挟持板58は、その上端側部に鍵部60が垂直に突設され、両挟持板58の鍵部60は互いに内向きに向き合うように突設される。または、鍵部60の端部を下方向に下げて結合溝底部52をこの鍵部60と平行となるように鋭角に刻設し、鍵部60と結合溝底部52を係合させることにより、その係合を強固にしてもよい。挟持板58は、その根本では隣接する挟持板58同士が側板で連設される。また、この2枚の挟持板58の間には、ストッパ部62が挟持板58と平行に立設され、その高さは、鍵部60の下端より円形部34の直径程度下となる高さに設定される。また、挟持板58とストッパ部62を含む部分である鍵状係止部56の底面の直径が、背装穴部18の直径より小さく設定され、鍵状係止部56が背装穴部18に挿通可能となるように設計される。ここで、底面の直径とは挟持板58とストッパ部62の底板部54と接合する形状と接する最小の円の直径である。

このファイルに挿入されるシート64は、例えば縦長矩形状の中央部66と、この中央部66を挟んでその長辺側両側に連設された縦長矩形状の2枚のシートが1

辺を除き溶着される袋部 6 8 を 1 個ずつ備えている。この中央部 6 6 は溶着され、その中央に、括れ部 2 8 と同一間隔すなわち、背装穴部 1 8 と同一間隔に配置されるシート穴部 7 0 が設けられる。この袋部は、書類等を挿入するための透過フィルムで作成される（図 1 4）。

以上の要素から構成されるファイル 2 の使用法を図 1 0 ～ 1 4 を用いて、その使用方法について示す。まず、ファイル本体 4 の背装部 8 に設けられた背装穴部 1 8 に、帯状背板 2 2 に設けられた鍵状係止部 5 6 が挿入される。さらに、本ファイル 2 に挿入されるシート 6 4 のシート穴部 7 0 に鍵状係止部 5 6 が挿入される（図 1 0）。これで、鍵状係止部 5 6 にファイル本体 4 とシート 6 4 が固定される。

次に、突出する各鍵状係止部 5 6 に各円形部 3 4 が対応するように可撓性係止棒 2 0 を帯状背板 2 2 上に配置する。そこで、各円形部 3 4 をすべて押圧することで円形部 3 4 が鍵状係止部 5 6 内に挟持される。このとき、円形部 3 4 はストッパ部 6 2 に接触して停止する（図 1 3（b））。

さらに、可撓性係止棒 2 0 の把持部 2 4 を水平方向に押圧して、可撓性係止棒 2 0 を軸方向にスライドさせると、鍵部 6 0 の位置が円形部 3 4 から係止部 3 2 へ移動する。このとき、鍵部 6 0 は結合溝 3 6 を咬止する。この状態が図 1 3（a）に示される状態である。

次に、シート 6 4 の枚数が多い場合は、可撓性係止棒 2 0 の把持部 2 4 を水平方向に引いて、可撓性係止棒 2 0 を軸方向にスライドさせると、鍵部 6 0 の位置が係止部 3 2 から円形部 3 4 へ移動する（図 1 1）。ここで、押圧部 3 0 の第 1 底面 4 6 がシート 6 4 を押圧するよう下面に配置されると枚数の多いシート 6 4 を固定できる。すなわち、円形部 3 4 の中心軸が押圧部 3 0 の中心軸とずれているため、第 1 底面 4 6 を下部とすることで回転中心と第 1 底面 4 6 の距離が短く、第 1 底面 4 6 の両端が R 面 4 4 であるため R 面 4 4 を含めて有効に押圧部 3 0 がシート 6 4 を固定する。

一方、シート 6 4 の枚数が少ない場合は、押圧部 3 0 の第 2 底面 5 0 がシート 6

4を押圧するよう下面に配置されると枚数の少ないシート64を固定できる。この場合は、第2底面50を下部とすることで、回転中心と第2底面50の距離が長くなり有効に押圧部30がシート64を固定する。以上の底部を決定した後は、可撓性係止棒20の把持部24を水平方向に押圧して、可撓性係止棒20を軸方向にスライドさせると、鍵部60の位置が円形部34から係止部32へ移動し、鍵部60を結合溝36で咬止させる。

以上より、シート64の枚数の多少に応じて可撓性係止棒20により最適な押圧と固定が可能となる。

次に、シート64をファイル2から開放するためには、まず、可撓性係止棒20係止端部26を水平方向に押圧して、可撓性係止棒20を軸方向にスライドさせると、鍵部60の位置が係止部32から円形部34へ移動させる。この状態で、把持部24を引き上げると、容易に端部から順に可撓性係止棒20の各円形部34が各鍵状係止部56から開放される(図12及び図13C)。この方法により、全ての円形部34が開放された後に、目的のシート64の脱着が可能となる。

すなわち、本発明に係るファイリング用具用綴具を利用することで、容易にシートの脱着が可能となる。また、複数の鍵状係止部56でシート64が固定されるため、ファイリング用具用綴具6が外れることによる、シート64の離散は発生しない。

また、ファイル2の分別廃棄やリサイクルに当たっては、可撓性係止棒20を開放後にシート64を外し、ファイル本体4と帯状背板22とに分解されるので、容易に廃棄可能であるとともにリサイクルも容易である。また、何れの素材も同一樹脂等で構成できるため、この点でも分別廃棄が容易である。

上述のような本実施の形態によれば、次のような効果がある。

円形部34の中心軸が押圧部30の中心軸をずらしたことにより、シート64の多少にかかわらず、シート64の固定が可能となる。また、可撓性係止棒20と帯状背板22を組合わせることで確実にシート64が固定され、一方で容易に着脱も

できる。

さらに、ファイル2を構成する部品は、可撓性係止棒20と帯状背板22とファイル本体4と少ないため、部品コストおよび製造コストともに低減できる。また、構造も簡単であるため、構造要因の製造工程が削減されるとともに、使用時の故障や破損も低減できる。

その上、ファイル2を構成する部品は、いずれも樹脂で形成され、金属部品を一切必要としないため、製造工程が削減されることによるコストの低減と、廃棄及びリサイクルが容易であり、また本体の軽量化を図ることができる。また、樹脂に混合させる染料を変更することで、様々な色彩を含むデザインの採用が可能となる。

なお、本発明は前記実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を達成できる範囲での変形、改良は、本発明に含まれるものである。例えば、前記実施形態において、帯状背板22とファイル本体4とは別々の構成としたが、これに限らない。すなわち、ファイル本体4に予め鍵状係止部56を立設させて一体化させることも可能である。確実に可撓性係止棒20が係止できればいずれの構成でもよい。ただし、本実施形態のように別々の構成とすることで、射出成型用金型をいたずらに複雑化させないことによるコスト低減や、別物品とすることによる剛性の維持ができることで、本実施例が好ましい。

本発明の実施例では、鍵状係止部56および括れ部28の数を6個としたが、この個数に限定されるものではなく、2個以上ならば構成可能であるが3個以上が望ましく、施可能な数であればいかなる数であってもよい。

さらに、押圧部30の断面は2つの平面を含む形状としたが、一方をR面とすることや、平面の数をさらに増加させて3面や4面とすることでより、枚数による押圧方法の調整が可能となるよう構成しても良い。

そして、鍵部60と切欠22との突設角度及び刻設角度を急傾斜としてその係止を強固な固定に変更することもできる。

また、本発明を構成する合成樹脂は、ファイルを成形できるものであれば特に限

定はない。例えば、ポリプロピレン、プロピレン-エチレングラム共重合体、プロピレン-エチレンブロック共重合体、ポリエチレン等のポリオレフィン系樹脂を採用することもできる。さらに、これら各樹脂にタルクや炭酸カルシウム等の充填材、酸化チタン等の着色剤、その他の安定剤、核材等を添加してもよい。



### 請求の範囲

1. 平板からなる2枚の表紙がその一辺でそれぞれ背装部と接合されて一体となる表装部と背装部に対応する可撓性係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、

前記背装部はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、可撓性係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記可撓性係止棒と表装部との間に前記シートが固定されるファイリング用具用綴具。

2. 平板からなる2枚の表紙がその一辺でそれぞれ背装部と接合されて一体となる表装部と背装部の表側に設けられる背装部より長さの短い帯状背板と背装部裏側に帯状背板に対応する可撓性係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、

前記表装部はその背装部に複数の背装穴部が設けられて、帯状背板はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、この鍵状係止部は背装部に設けられた複数の背装穴部を貫通し、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、可撓性係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記可撓性係止棒と表装部との間に前記シートが固定されるファイリング用具用綴具。

3. 可撓性係止棒は、径が小さい括れ部とこの括れ部より径の大きい押圧部とから構成されることを特徴とする請求項1または2記載のファイリング用具用綴具。

4. 括れ部は、結合溝が長軸方向に刻設された係止部と、曲面から構成される円形部とから構成されることを特徴とする請求項3記載のファイリング用具用綴具。

5. 結合溝は、円形曲面の点対称の4点が切欠けされることを特徴とする請求項4記載のファイリング用具用綴具。

6. 押圧部は、括れ部の中心軸線が押圧部の中心軸より特定方向に偏って設けら

れることを特徴とする請求項 3 記載のファイリング用具用綴具。

7. 鍵状係止部は、その間に可撓性係止棒を挾持する挾持部の先端に設けられる鍵部は互いに内側に突出されることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のファイリング用具用綴具。

8. 鍵状係止部は、対向する挾持部の間に挾持部より高さの低い板状のストッパ部が帯状背板から垂直に突設されることを特徴とする請求項 1 または 6 記載のファイリング用具用綴具。

9. シートは、中央部が圧着されて複数の穴部が設けられるとともに上部に開口部が設けられた透明な袋状に形成されることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のファイリング用具用綴具。

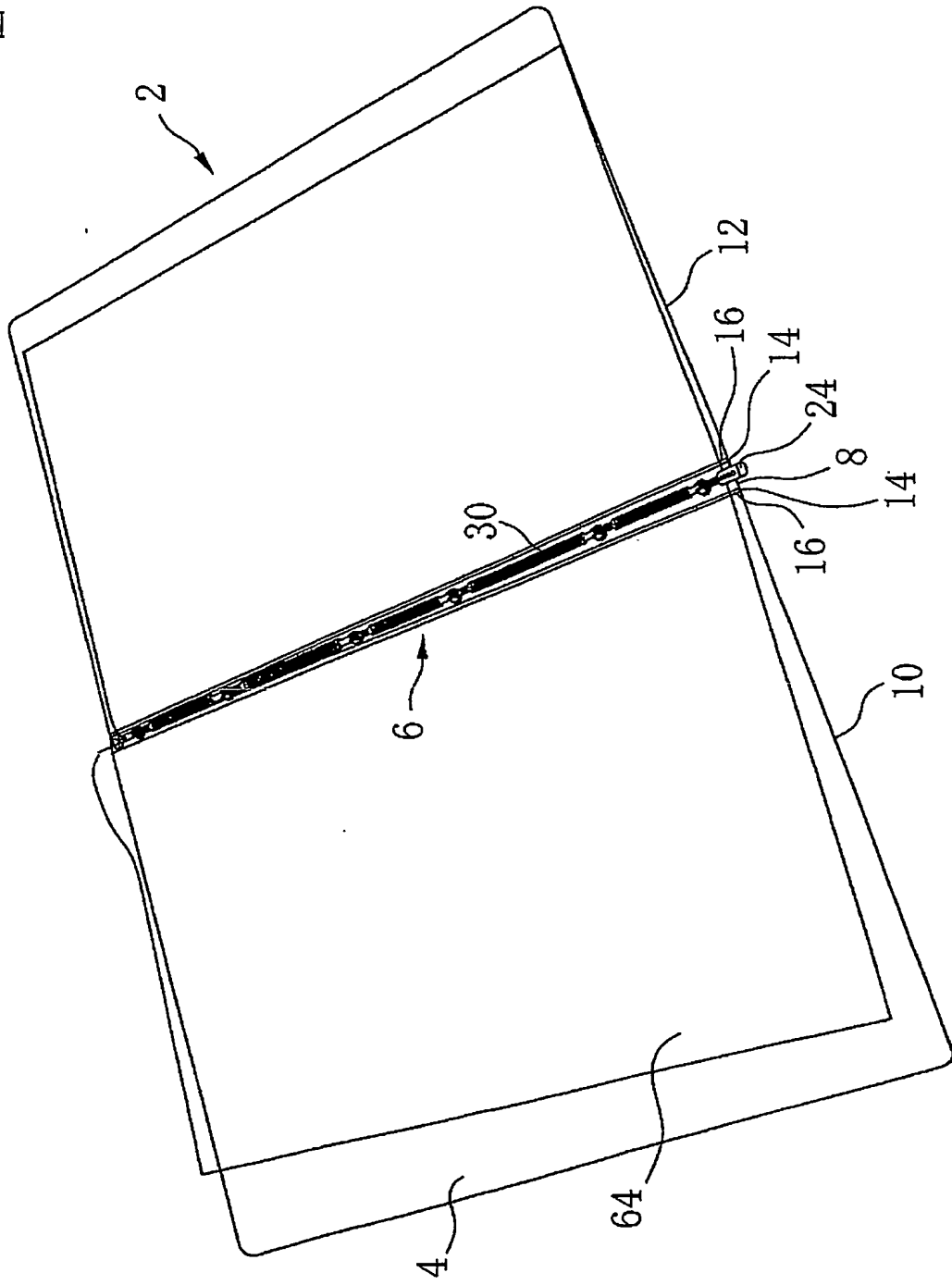
10. 帯状背板の結合溝と結合溝部は係合する帯状背板の鍵状係止部に合わせ鈍角に刻設することを特徴とする請求項 1 乃至 9 記載のファイリング用具用綴具。

## 要約書

平板からなる 2 枚の表紙がその一辺でそれぞれ背装部と接合されて一体となる表装部と背装部に対応する可撓性係止棒とから構成されて複数のシート穴部を中央に列状に設けられるシートを綴じるファイリング用具用綴具において、

前記背装部はその表面に複数立設される鍵状係止部を備え、前記シートはそのシート穴部に前記鍵状係止部が貫通されて、可撓性係止棒はこの鍵状係止部の位置に対応する位置に複数の括れ部が設けられて、前記各括れ部が前記鍵状係止部に係止されることにより前記可撓性係止棒と表装部との間に前記シートが固定される。

图 1



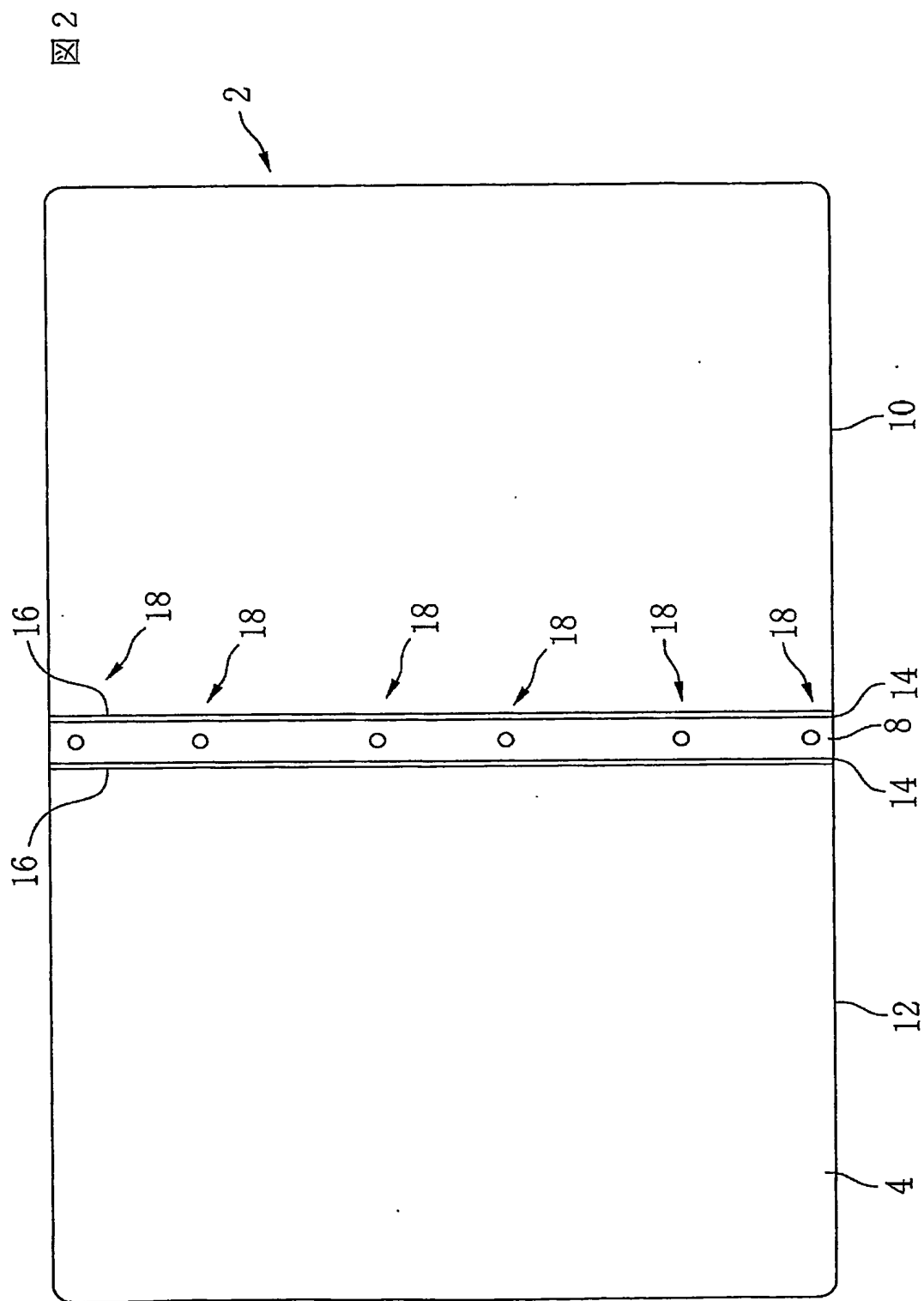
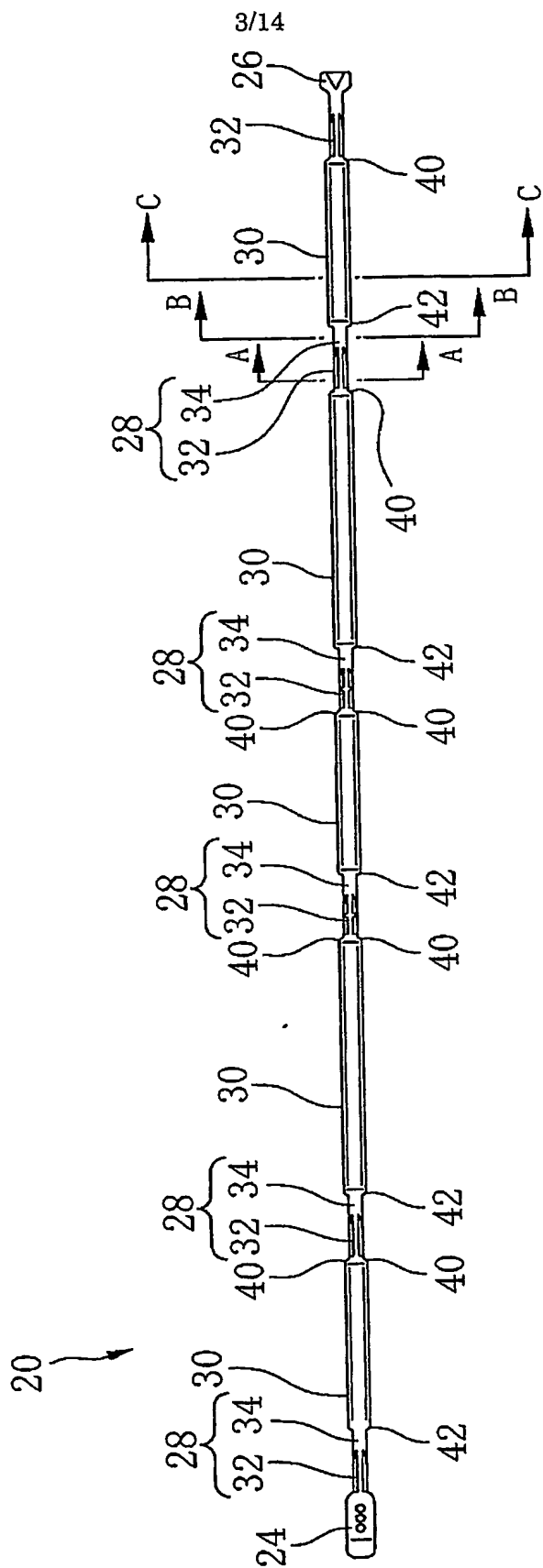
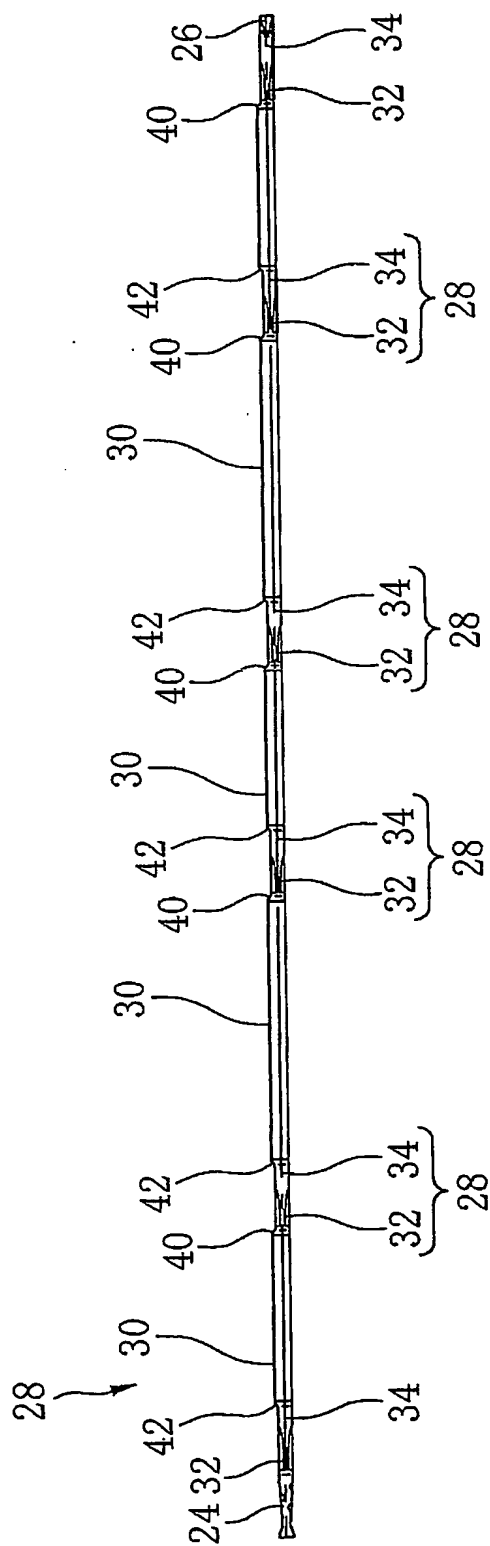


图 3



4  
☒



5

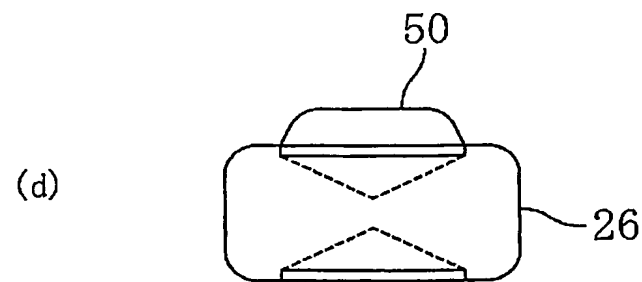
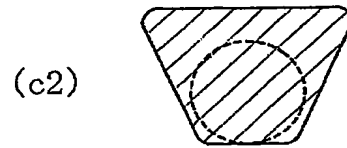
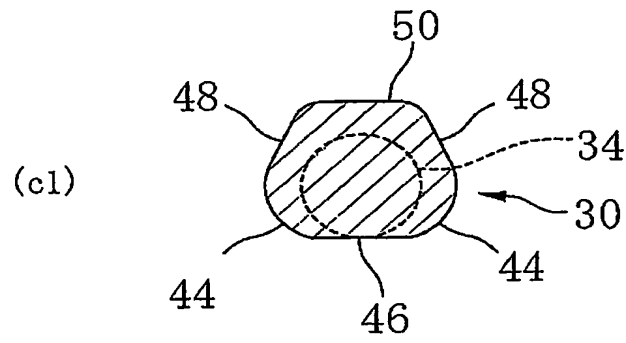
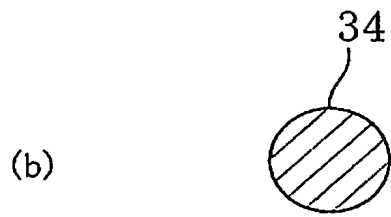
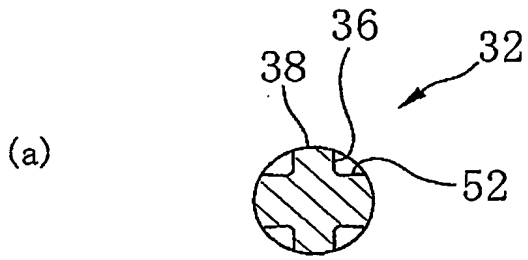
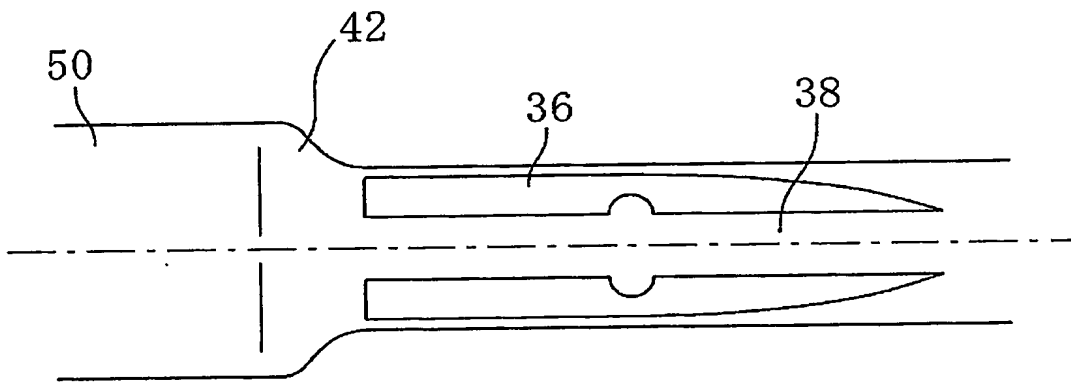
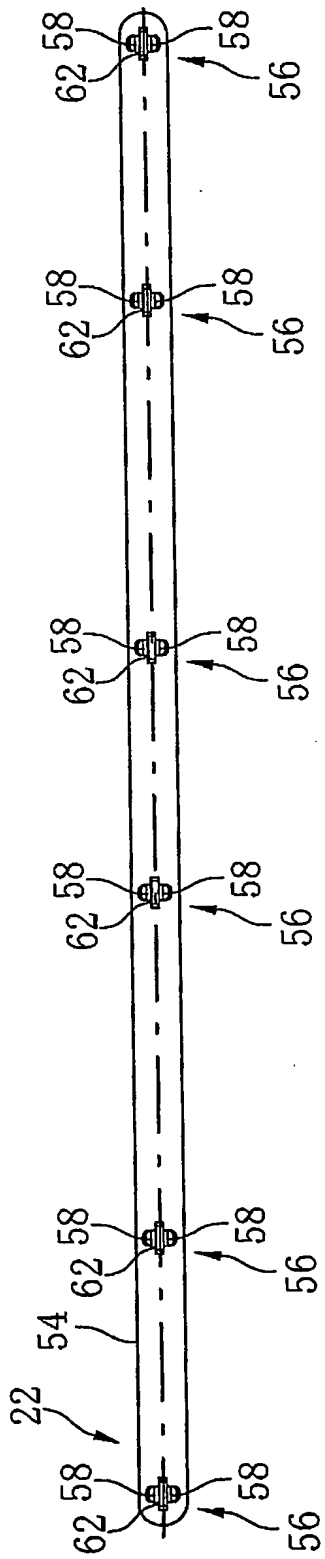




図 6





7/14

7

8

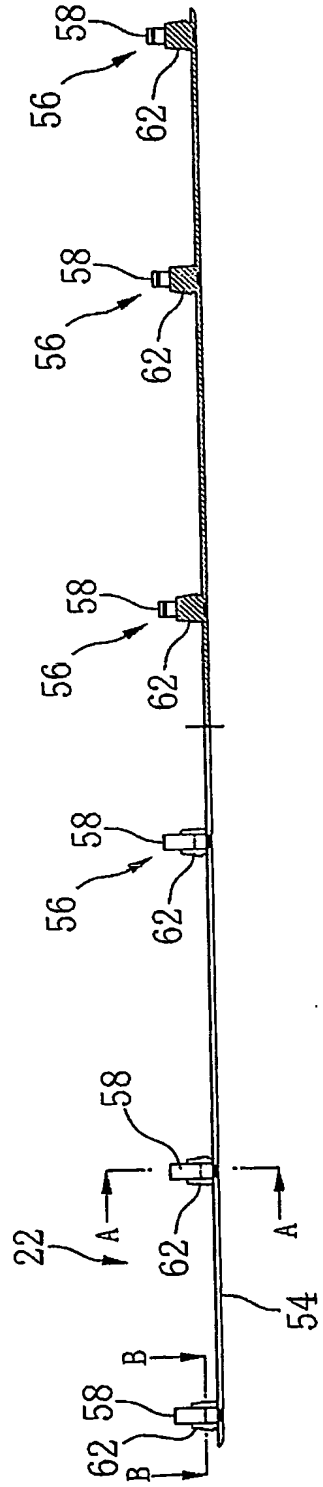


图 9

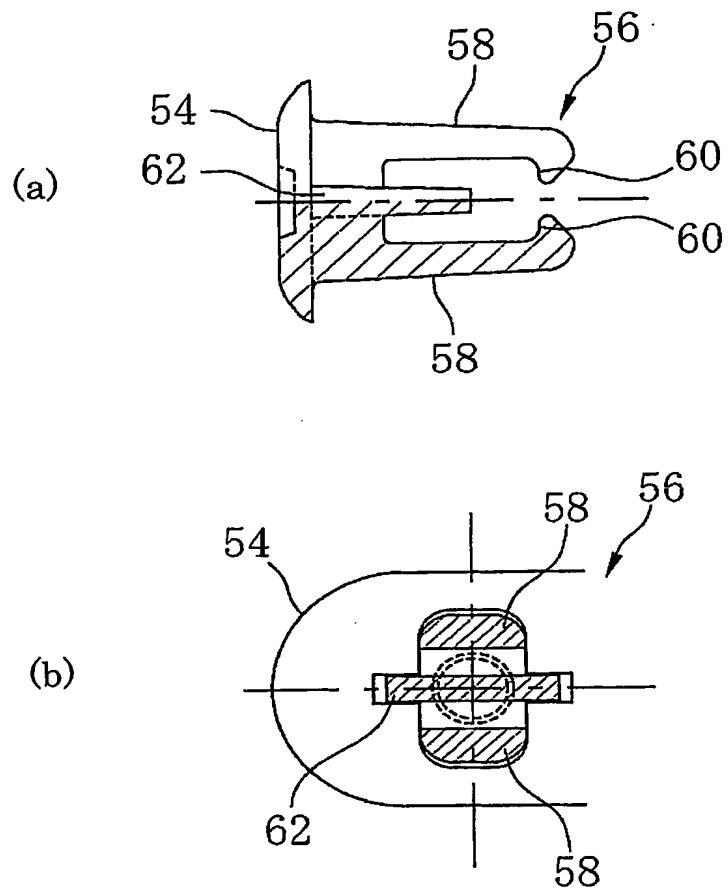


FIG 10

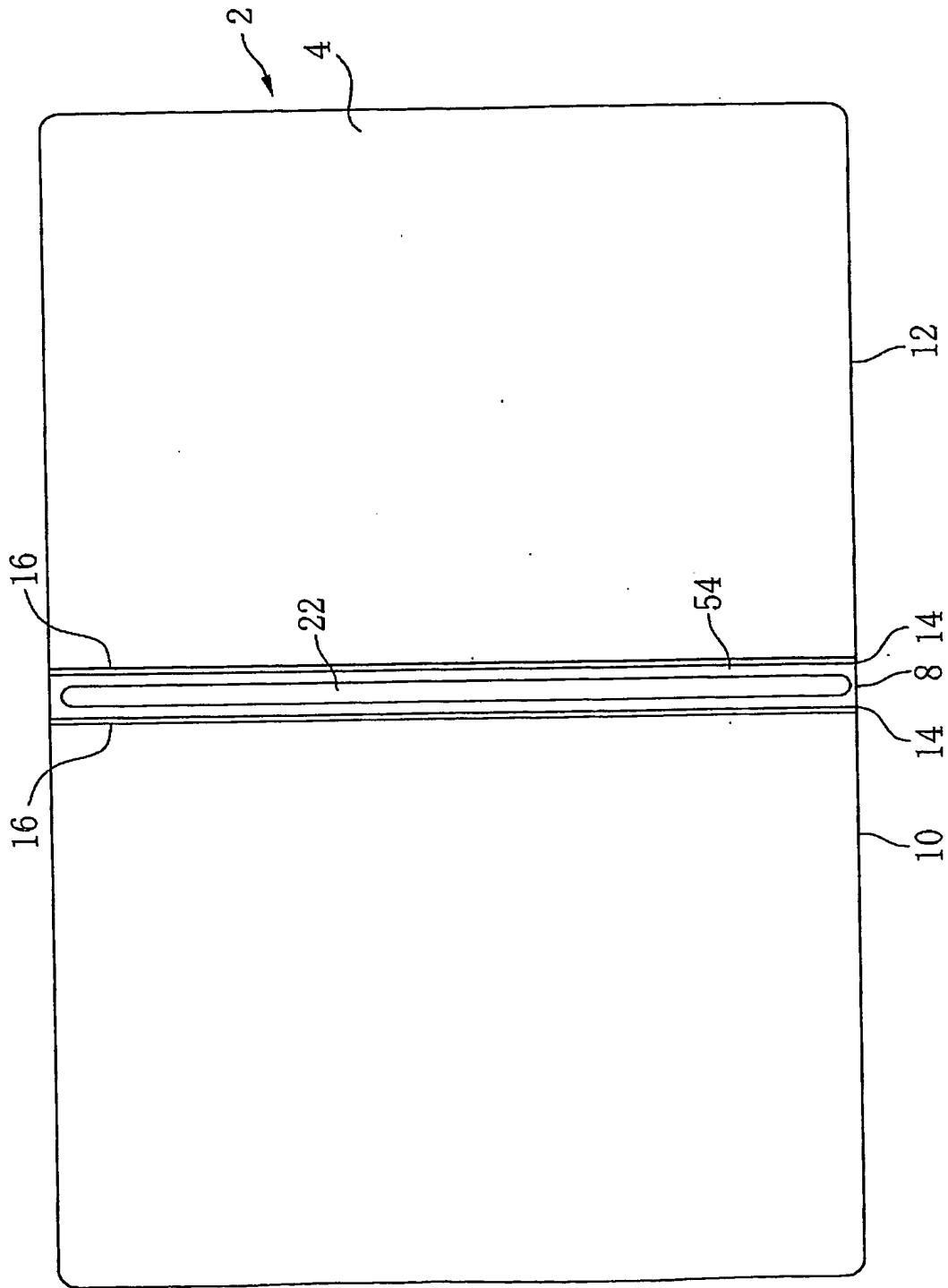


图 11

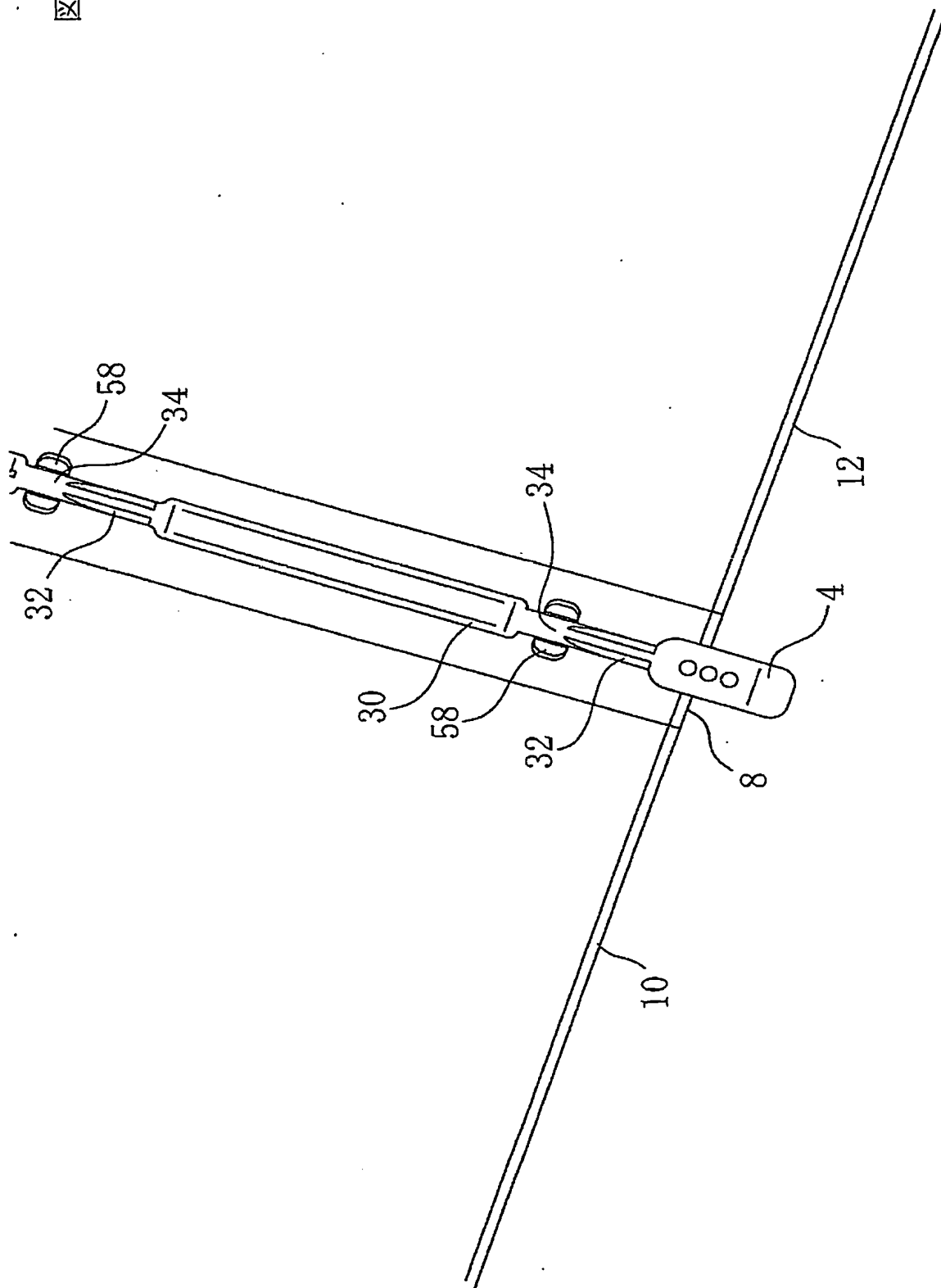


FIG. 12

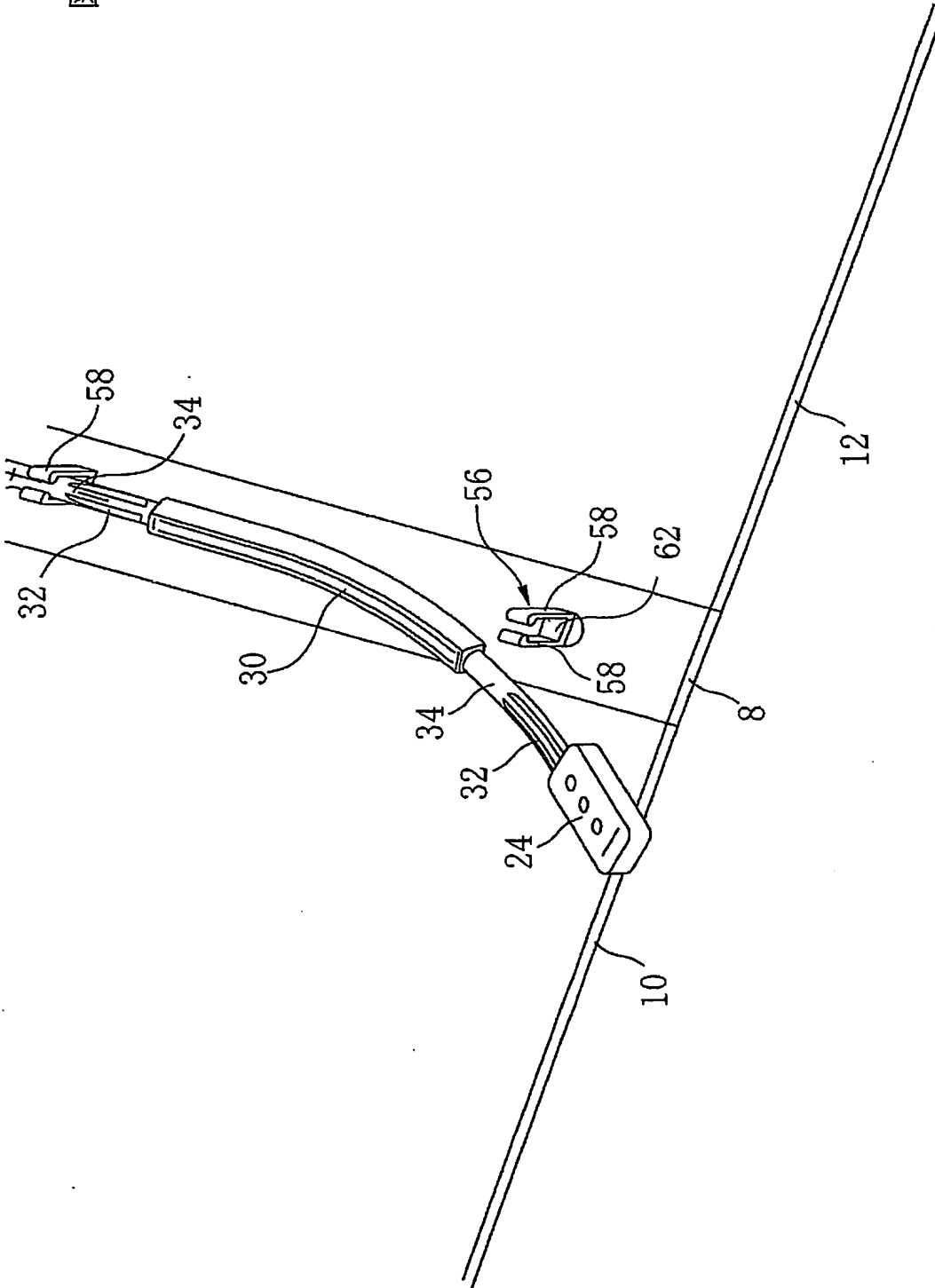


图 13

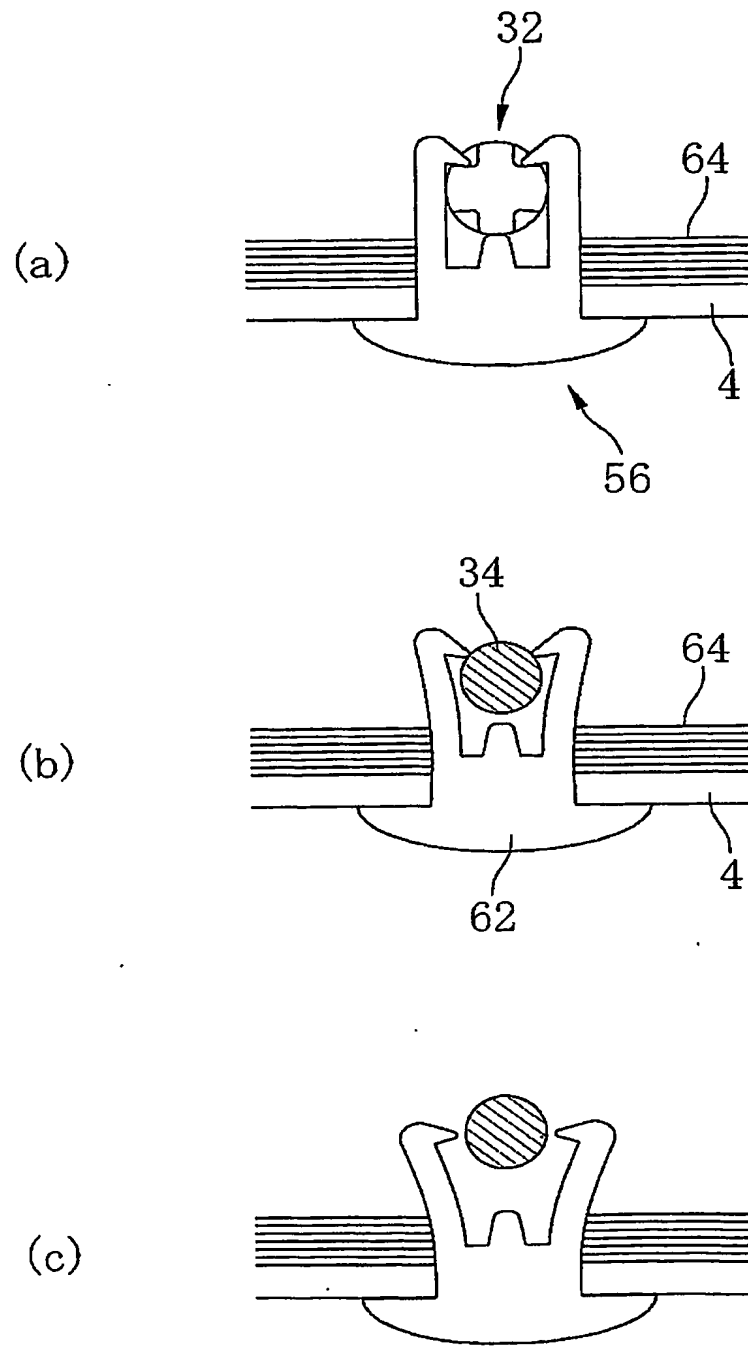
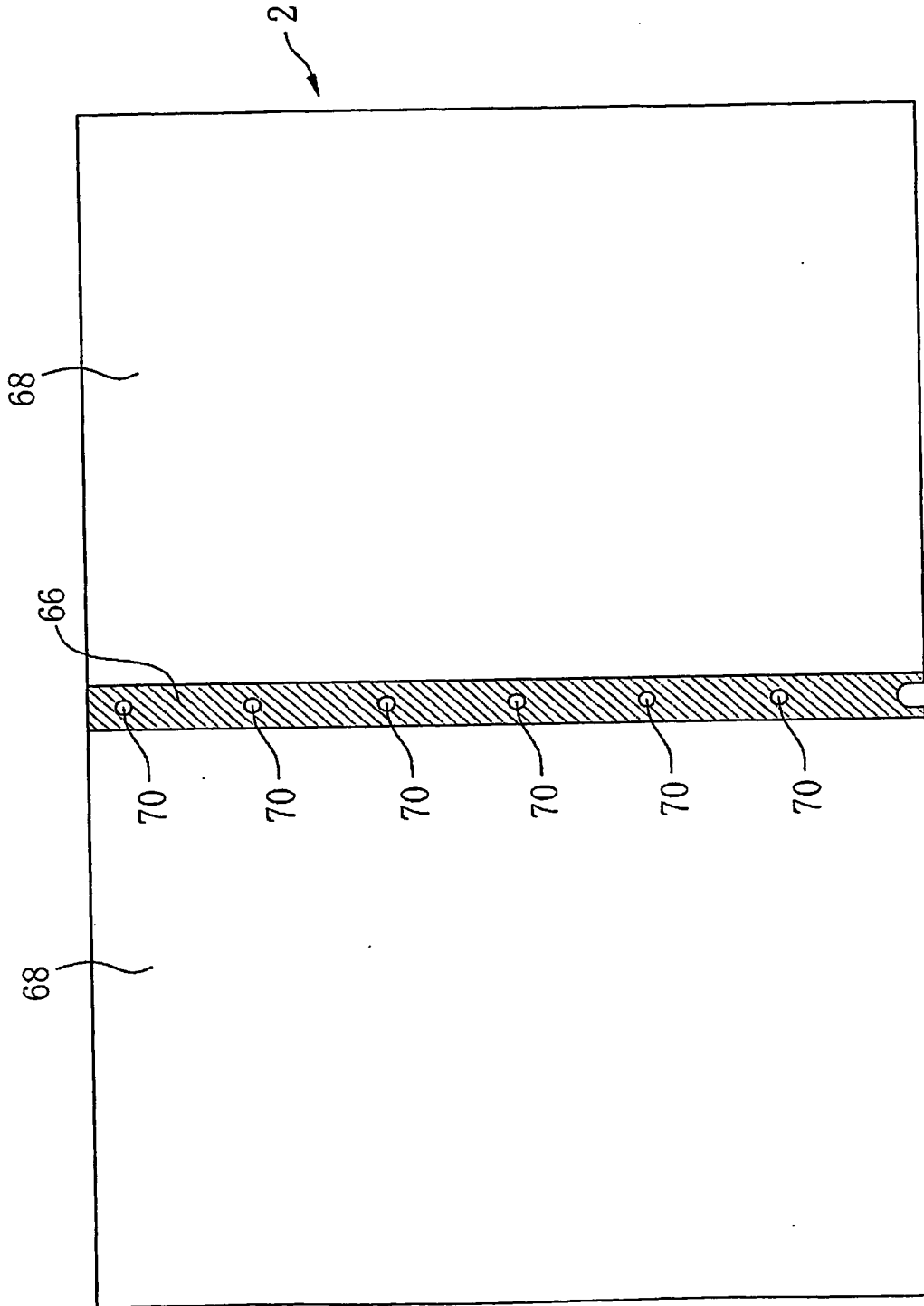




图 14



This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ BLACK BORDERS
- ☒ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images  
problems checked, please do not report the  
problems to the IFW Image Problem Mailbox**